NIE実践報告

1．タイトル：☆新聞を身近なものに

2．学校名

福岡県みやこ町立犀川小学校

3．実践者名（代表者名）

坪根　慎治

4．学年

第6学年

5．教科・領域名および受講児童・生徒数

総合的な学習の時間　40人

6．単元（本時の学習課題）名

「伝えよう　平和の大切さを」

7．目標（狙い）

修学旅行において、戦争や原爆についての事前学習や、長崎でのフィールドワーク・戦争体験の聞き取りや、平和に関しての世界の人々の活動を調べ、平和の大切さについて考えたことを伝えることができる。

8．評価の視点

調べたことをもとに自分が考えたことが明確に表現できるよう、観点を明らかにしながらプレゼンテーション(他学年児童)することができたか。

9．年間指導計画における本単元の位置づけと時数

（または、単元展開および時数と本時の位置づけ）

国語:自分の考えを発信しよう(光村図書) 8時間
総合的な学習の時間:伝えよう平和の大切さを　20時間　　合計28時間

10．単元（本時）の学習展開（含む時数）と留意点

(1)「人権集会」で修学旅行報告を行い、全校児童に平和な世の中にするために自分にできることを伝える計画を立てる。(3時間)
(2)平和を伝えるために、どんな内容を伝えるか話し合う。(3時間)
(3)課題別にグループで調べる計画を立てる。(3時間)
(4)平和に関連する新聞記事を集める。(2時間)
(5)グループ別に調べ学習を行う。(3時間)
　※新聞記事やインターネット・修学旅行リポート・聞き取り(語り部)など
(6)調べたことや活動したことをまとめる。(プレゼン原稿に)(5時間)
(7)調べたことや考えたことを4・5年児童に発信する。(1時間)
(留意点)
　・新聞だけでなくインターネットやテレビ番組などからの取材の支援を行う。
　・国語科・社会科の関連を図り、それぞれの学習に生かすようにする。

11．児童・生徒の反応、感想・意見

　意識して新聞に目を通すことで、自分に必要な情報が取り出せることを学んだ。毎朝の新聞記事紹介や新聞閲覧コーナーの設置によって、情報収集の手段をインターネットに頼りがちであった児童が新聞から収集しようとするようになった。難解語句についても自ら調べ、相手を意識した原稿を考え、プレゼンも新聞記事の構成な

12．成果と課題

・記事から自分が考えることや、今議論されている問題など難しい内容であっても、朝の記事紹介などで話したり、自分ならどう思うかなど積極的に関わろうとしたりする児童が増えた。
・新聞記事が児童・教師相互の共通の関心事となり、社会情勢に対する理解が深まった。
・新聞記事を想起しながら、学習中に話ができるなど楽しい授業実践に結び付けることができる場面が増加した。
・今年度の取り組みは、6年生の実践のみであったが、全校児童に新聞にふれる場面が検討できるとよかったと思